



「田んぼの学校」あぜシート張りを実施

5月6日(木)、いわき市立夏井小学校と連携して実施する「田んぼの学校」のあぜシート張りを行いました。



(あぜシート張り(シート押さえ))

今回の「田んぼの学校」は、4月6日に実施した開校式及び種蒔きなどに続く第2回目の活動で、5年生児童23名を対象として行いました。

あぜシート張りは、学習田内側のあぜ沿いにシートを張ることによって、水漏れなどを防ぎ、田植えに備えるための作業です。



(あぜシート張り(土寄せ))

児童たちは、その役割について学習した後、地元応援団の指導を受けながら、実際にシートを張る作業を体験したことで、米づくりに対する意識の高まりが感じられる活動となりました。



「市営荻牧野」が開牧されました。

5月12日(水)、いわき市営荻牧野が開牧しました。

この開牧は、脚腰の強い健康な牛づくりを目的として毎年行われています。



(荻牧野に放牧された牛たち)

今回放牧された牛は、いわき市内外から集められた黒毛和牛の繁殖雌牛27頭で、個体番号の確認に続いてダニよけ剤を塗布した後、牧野に放されました。

牛たちは牧野を駆けまわっては、各々お気に入りの場所で牧草をはんでいました。

放牧期間中は、月1回の衛生検査により個体別の健康チェックが行われます。

これからも随時、妊娠牛の入牧と妊娠後期の牛の下牧が繰り返され、11月下旬まで放牧が行われます。

関係者は、期間中における牛の健康と閉牧までの無事を願っていました。



「田んぼの学校」田植えを実施

5月13日(木)、いわき市立夏井小学校と連携して実施する「田んぼの学校」の田植えを行いました。

今回は、第3回目



(実習田の田植えその1)

の活動で、夏井小学校全体の行事として全児童(112名)が参加して行いました。

児童たちは、ひと株ずつ丁寧に手際よく苗を植えていました。

今回植えた稲は「こがねもち」というもち米の品種で、7、8月には草取りなどの手入れ作業を行い、9月の稲刈りと10月の脱穀を経て、11月の収穫祭では、汁餅などにして食べる予定となっており、児童たちは、稲の順調な生育に期待を寄せている様子でした。



(実習田の田植えその2)



「いわき地域土地利用型作物支援チーム員会議、農作業安全推進会議」を開催

5月17日(月)、県いわき合同庁舎において、いわき市、いわき市農業協同組合、全農福島浜通り営農事業所、いわき農林事務所による土地利用型作物支援チーム員会議を開催し、ふくしま水田農業改革実践プログラムの目指す方向に即した活動や実効性のある活動の展開について協議を行いました。

会議では、水稻における直播栽培(低コスト栽培技術)の導入拡大や栽培管理指導、水田を活用した新規需要米の生産拡大のほか、エコファーマーへの誘導拡大による需要動向に対応した米づくりなどについて検討しました。



(キャビン付きトラクタによる大豆の播種作業)

また、畑作物では大豆、そばの推進や重点地区の活動内容について、今後、関係機関・団体が一体となり目標達成に向けて取り組むことが確認されました。

この会議の後、引き続き、「農作業安全推進会議」を開催しました。

会議では、4月20日から5月31日の春季の農作業安全運動重点推進期間中の推進とともに、9月20日から10月20日の秋季重点期間中の推進について検討を行い、農作業事故の未然防止のため、各種指導会や広報資料等を通じて、一層の推進を図ることが確認されました。



「第43回「いわき市植樹祭」が開催されました。

5月22日(土)、いわき新舞子ハイツグラウンドにおいて、第43回「いわき市植樹祭」が、開催されました。

今回は、本年度の緑化運動のテーマである「小さな芽届け未来へ 緑の力」の理念のもと、森・川・海を一体的にとらえた緑化思想の高揚と環境保全を図るため、潤いと安らぎのある空間の創造を目指して、市民や林業、漁業関係者など約250人が参加して行われました。

当日は、好天に恵まれ、式典ではいわき市長が「緑の魅力の再認識を」と、主催者挨拶を行い、来賓のいわ



(式典の状況)

き市議会議長、いわき農林事務所長から祝辞が述べられました。続いて、高久小学校の児童19名と小名浜海洋少年団員ら4名の合わせて23名が、「緑を守り、豊かな海をつくります。」「緑豊かな美しいまちをつくります。」と、誓いの言葉を述べ、これに続いて植樹が開始されました。

記念植樹では、渡辺いわき市長のほか、来賓や小名浜海洋少年団、いわき市立高久小学校児童、サンシャインガイドいわきなどが2組に分かれ、市の木「クロマツ」を植えました。



(記念植樹の状況)

また、続いて行われた一般植樹では、グラウンド沿いに、親子連れなど参加者全員で、マテバシイやトベラの苗木合わせて500本を植樹し、参加者は、緑化による環境保全の重要性について意識を高めていました。



(一般植樹の状況)



「いわき地方環境と共生する農業推進会議」を開催

5月27日(木)、県いわき合同庁舎において、「いわき地方環境と共生する農業推進会議」を開催しました。

いわき地方の有機性資源を循環利用し、環境と共生した持続的な農業を推進するため、具体的な推進計画について検討を行いました。今年度は、3箇所の「有機実証ほ」を設置し技術の普及を図るとともに、有機農業者の育成と組織化を推進することとしています。

また、安全性や環境に配慮した農業に取り組むエコファーマーの新規認定を促進するとともに、認定期間が満了した生産者が継続して認定されるよう支援を行

い、さらに、たい肥利用の推進、農業用使用済プラスチックの適正処理の推進、農産物の安全性を確保する農業生産工程管理(GAP)の導入支援について検討しました。



(推進会議の状況)

なお、今年度からは、推進計画の実施のため推進チームを設置し、具体的な活動を行っていくこととしています。



「食品表示ウォッチャー」委嘱状交付式及び研修会を開催

5月28日(金)、県いわき合同庁舎において、平成22年度食品表示ウォッチャー委嘱状交付式及び研修会を開催しました。

福島県食品表示ウォッチャー制度は、消費者の方々に日常の買い物等を通じて食品表示の状況を継続的にモニタリングしていただくことにより、食品表示の適正化を図ることを目的とするもので、平成22年度は、県全体で40名、当事務所管内では8名がウォッチャーに委嘱されました。



(委嘱状交付の状況)

当日は、当事務所の五十嵐企画部長から出席したウォッチャー一人一人に委嘱状を交付し、引き続き県農産物安全流通課職員による活動内容及びJAS法に基づ

く食品表示についての研修が行われました。

ウォッチャーの方々には平成22年6月から平成23年3月までの間、日常利用する店舗において、生鮮食品の名称や原産地などの表示状況を確認していただき、定期的に県に報告してもらい、その結果は、食品表示の適正化の確保に役立てられるとともに、消費者の皆様の商品

選択にも
寄与する
こととなり
ます。



(研修会の状況)

いわき農林事務所からのお知らせ

- ◎ 田んぼの学校（草取り）
期日：6月22日（火） 9:15～ 会場：いわき市立夏井小学校
- ◎ 園芸産地育成強化いわき地方戦略会議、いわき地方産地支援チーム合同会議
期日：6月23日（水）13:30～ 会場：県いわき合同庁舎 4階中会議室
- ◎ 第1回いわき地域産業6次化ネットワーク
期日：6月28日（月）13:15～ 会場：県いわき合同庁舎 4階大会議室
- ◎ 田んぼの学校（生きもの調査）
期日：7月 1日（木）時間未定 会場：いわき市立夏井小学校
- ◎ 平成22年度いわき市農産物直売所連絡協議会総会
期日：7月 2日（金）11:00～ 会場：いわき新舞子ハイツ
- ◎ 田んぼの学校（分けつ調査ほか）
期日：7月 8日（木）時間未定 会場：いわき市立夏井小学校

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6152 Fax (0246)24-6196

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp



iwaki.nourin@pref.fukushima.jp